

第6号

市自公連だより



筑紫野市自治公民館連絡協議会

■発行元 筑紫野市自公連事務局 ■☎818-0057 福岡県筑紫野市二日市南 1-9-3
 ■発行責任者 会長 中野 二郎 生涯学習センター内 ☎ 092-918-3535

さて、新年に入り間もなく、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、福岡県にも緊急事態宣言が発令されました。昨年より、自公連・公民館・コミュニティ運営協議会との一体化に向けての連携強化の取り組みに努めてまいりましたが、公民館事業の「夏祭り・敬老会・体育祭」がやむを得ず中止となり、皆様にとっては大変残念な思いをされたことと思います。日々の生活が大きく制限されているとともに、自公連・公民館・コミュニティ運営協議会の年間行事の変更も余儀なくされている状況です。今後対応マニュアルに基づき、コロナウイルスに負けない自公連・公民館・コミュニティ運営協議会活動を目指して頑張っていきたいと思えます。

コロナに負けない対策を!

小公連から新しく自公連と変わり、早や二年目
 が過ぎようとしています。
 一年目は定期総会から始まり、館長・主事研修会、福岡県公民館大会、九州地区公民館研究大会、推進大会、地区別視察研修会等にたくさん参加し、各地区の経験や活動について勉強させていただきました。少子高齢化が進み、これからは若者も生活しやすくなるような地域活動の在り方を考えていかなければなりません。今後も皆様と協力しながら地域活動に努めていきたいと思えます。

【役員のことば】



筑紫野市自治公民館
 連絡協議会 副会長
 中川 幸治
 (平等寺公民館 館長)

二日市地区 【三地区公民館】

栄町・中央・昭和の三区は、各々世帯数二百数十で、中央商店街・JR二日市駅・二日市八幡宮が位置し、かつての二日市の中心であった侘が残る街並みです。公民館は、三地区で共有し、多くの事業や集会等を行っています。中でも今回は中央の女性の区長を中心とし、熱心な活動を行っている『はなみずき会』と称する女性陣と、昭和の老人サロン『昭寿会』の活動状況が盛んですので、紹介したいと思います。

『はなみずき会』:

中央区の公民館活動は、区の女性部である『はなみずき会』が中心になって運営しています。区にはシニアクラブの組織はありませんが、「ゲンキクラブいきいきサロン」は参加者の層が厚く、当会を核として高齢者や子どもたちの全員参加型で、バラエティーに富んだ催しを開催するよう工夫しています。今年度はコロナ禍で通常の行事はできませんでしたが、『はなみずき会』では10月に公民館の畳干しや大掃除をし、来年度活動の盛り上げ策を話し合いました。



『昭寿会』: 昭和区の老人会の名称で、去年までは毎月1回「健康教室」と称して近くの病院の先生や看護師さんを講師に招いて健康相談会を開いたり、「音楽会」と称して講師と参加者が一緒になって歌える会の開催を行ってきました。運動やゲームもいろいろ工夫して実施していました。今年度はコロナ禍、講師を招いての健康相談会等が実施ができず、公民館で検温・手洗い・人との距離の確保を守りながら、自分達だけで楽しめるビデオの上演を月1回行っています。

令和二年度各地区地区別視察研修会(紙上開催)

二日市東地区 【俗明院公民館】



俗明院は大人から子供までみんなが住みやすいまちづくりを目指しております。年間行事以外でも公民館が人々の憩いの場となるよう努めております。そのいくつかの取り組みを紹介致します。

まずは子育てサロンの開設。最初は利用者2組からのスタートでしたが、現在は認知度も上がり、たくさんの親子で賑わっております。ボランティアの方の催し物、夏のプールは特に人気です。

次になかよし食堂の開設。月一回公民館が食堂に大変身！ボランティアのお母さんの暖かい食事と子ども達の笑い声が公民館中に響き渡り、とてもアットホームな雰囲気です。去年は食堂が実施できなかった代わりに食材配布を行いました。こちらも大反響でした。最後に防災防犯活動について。登下校の見守りは勿論ですが、昨年からは週一回青パト巡回も始めました。また区内7カ所に防犯カメラを設置し安全なまちづくりにも努めております。年末には歳末警戒を実施し、小中学生が拍子木を持って火災予防を呼びかけています。今後も地域力を高める取り組みを積極的に行い、公民館を身近に感じてもらえたらと思っております。



山口地区 【山口公民館】

山口地区に設置されている山神ダムの雨量が、福岡の確率降水量の200年値（200年に1回の大雨）である300mmを、過去11年で2回超えています(表)。また、山口地区には山神ダム(298万トン)以外にも天拝湖(400万トン)も設置されています。さらに、地区は南北とも山に囲まれているが、山は非常に崩れやすい真砂土で覆われています。そのため何時、土砂災害や濁流による大きな災害が発生しないかと心配されています。山口地区ではコミュニティセンターが一次避難所に、小学校が二次避難所に指定されています。山口区公民館(写真)もかつては避難所に指定されていましたが、現在は自主避難所から除外されています(看板は残されています)。しかし、現在、大雨時には危険なことと思いつつ、指定避難所に行けない方のために公民館を避難所として開設しているのが実態です(なお、公民館に来られた方はできるだけコミセンなどに案内しています)。公民館は本来、教育・文化の場とされていますが、自然災害が増加しているなかであって、地域の身近な防災拠点としての役割も高く、その機能の向上が必要ではないかと考えられます。



過去11年の大雨時の降水量(mm)

年 月 日	太宰府	山神ダム
2009年7月26日	277	303
2010年7月14日	200	198
2018年7月6日	332	407
2020年7月7日	148	203

御笠地区 【自公連】

御笠地区自治公民館連絡部会では、今年の地区別視察研修会の開催を検討するにあたって、御笠地区の全公民館を対象にアンケートを実施しました。アンケートでは研修会をどのように開催すべきかを問う以外に、公民館活動の現状と課題、今後の公民館に必要とされる事業、活動を続けるうえで困っていることを質問しました。



16行政区中11行政区が回答。共通の課題として、現役世代の高齢化により平日昼間に住民がおらず、活動継続が難しい。また、新型コロナウイルスによる自粛期間の終わりが見えず、計画を立てにくいことが挙げられました。コロナ禍でも取り組んでいきたい事業として、健康づくり・声掛け見守り・三密を避けられる趣味の講座などがあり、人との繋がりを求める声が多いことがわかりました。

来年度、御笠まちづくり協議会では組織体制が改編され、公民館組織としてどのような立場で活動をするべきか検討中です。アンケートの結果を受けて、16行政区が連携して公民館事業を活性化できるように話し合いを重ねていきます。



山家地区 【自公連】



令和2年11月27日（金）、山家地区自公連では先進地視察研修を開催しました。コロナ禍の中であり、不安でしたが、検温・手洗い・マスク等の対策を十分に行ったうえで実施しました。参加者は、自公連7名（自治区長5名・公民館主事2名）・コミ協5名・コミセン館長の計13名。9時10分、福岡市民防災センターに到着後、60分の体験コース。大画面で防災の基本を学んだ後、「火災体験」。煙に耐えながら迷路を通り抜けました。次は、「消火訓練」。実際に消火器を使って消火訓練ができました。そして、「地震体験」。震度7の地震を体験し、訓練とわかっていても揺れの大きさに驚きました。この体験を通して、災害に対する日々の備えが本当に重要であることを実感しました。

この研修を通して、「自助・公助・共助」と言われる防災の基本を学ぶと同時に、改めて「近所」の大切さを見直しました。それは、各地区の自主防災組織の充実こそ第一の課題であるということを確認できたことです。これからも、「山家は一つ」を合言葉に、「近所力」の向上を図っていきたいと思います。

筑紫地区 【若江公民館】



若江区は、戦前は20世帯に満たない小さな集落でした。平成7年都市計画が公告され「筑紫駅西口土地計画整理事業」が決定され、平成11年頃から住民移転などが開始されました。平成9年（1997年）3月、141世帯390人の若江区は、現在、600世帯にせまり、1600人を超えました。あと3年位で区画整理事業が完成予定となっており、最終的に700世帯1800人以上になることが予想されます。

現在は、ほとんどの世帯が転入世帯となっていますが、先輩役員一同のおかげで、「若江区ふれあい祭り」「敬老祝賀会」「若江スポーツフェスタ」等のメイン行事、任意団体として、「子ども会」（児童数135人）「青壮年会」（会員数35人）「若栄会」（会員数35人）「消防団」（団員6人）が組織され、それぞれ活発に活動しています。今後の課題として、事業完成後の隣組の組割の見直しが考えられていますが、新入居者の方を含め「横のつながり」を強めていきたいと思えます。

若江公民館館長 光吉 幸雄



（若江ふれあい祭り）



（敬老祝賀会）



（若江スポーツフェスタ）

筑紫南地区 【自公連】

本地区では、昨年度より地区別視察研修会を公民館研修会と名称を変え、地域内の公民館の活動を紹介しています。

今年度も1～2月に実施する計画でしたが、特別警報級の台風10号接近時、公民館を避難所とするノウハウが不安だとの相談がありました。そこで、災害時の公民館の役割を再確認することが緊急の課題と考え、筑紫野市危機管理課に講師を依頼。10月10日（土）に筑紫南コミュニティセンターで公民館研修会を開催しました。



その内容は、より具体的に(1)避難所としての公民館の考え方、(2)要支援者の支援～地域での連携～、(3)自主防災組織の指揮編成について、(4)公民館の安全確保（立地、台風接近時の対策）、(5)避難所の運営、(6)市との連携、の6つの項目について研修を深めました。講師は地域コミュニティと連携する視点を持ちながら話され、また、質疑応答では普段から気になっている事柄について活発な意見交換ができ、充実した時間となりました。参加された皆さんからもわかりやすかったと好評をいただき、今後、各自治会にあった対策を考えるきっかけとなる研修会でした。

コミュニティ運営協議会活動（シリーズ6）

御笠まちづくり協議会
会長 八尋 雄二



宝満山の麓、御笠は大きく吉木地区・阿志岐地区に分かれ、16行政区あります。御笠まちづくり協議会は「住みやすい・住みつづけたい・明るい御笠のまちづくり」を目指して10部会で活動しています。

御笠地区の自公連は「公民館部会」として定例会議を持ち、それぞれの地区の活動や課題などを共有しています。部会では「公民館なんでも講座」を実施し、公民館での活動を助成する事業を継続。各公民館で新規講座が立ち上がり、新しい人の輪が出来上がりつつあるようです。また公民館部会は、御笠まちづくり協議会の大きな催しである「御笠地区市民文化祭」を主催しています。

今後とも笑顔を大切に、各地区で芽吹いた人材と活動が御笠地区全体で繋がりが広がっていくよう、協議会全体で公民館活動をバックアップしていきます。



御笠自治会バスはほとんどの公民館に停車します。



夏祭りの様子
(西吉木)

福岡県公民館実践交流会（1/29）

【開催方法】

紙上開催（実践事例資料集を各公民館に配布）

【大会テーマ】

「開かれ、つながる社会教育の実現を目指す」
～地域コミュニティの維持と防災拠点としての役割～

【報告内容】

「学社連携・融合」「団体育成・サークル活動」「ボランティア活動」「家庭教育」「人権教育」「自治公民館活動」「青少年教育」「高齢者教育」

福岡地区公民館研修会（2/13）

【開催方法】

紙上開催（研修資料に加え、講演・事例発表等の内容を収録したDVDを作成、配布）

【研修内容】

実践発表において、みかさ台公民館の久木田館長が「翔べ！！“コロナに負けない公民館”」というテーマで発表され、その様子が、DVDに収録されました。コロナ禍の中で、みかさ台公民館が実践している取組みの中から、「サークル活動」、「防災訓練」、「オンライン公民館」について発表されました。今後とも、ウィズコロナが常態化すると思われませんが、その中でも公民館活動を継続していくために、ZoomやYouTube等を活用した新たなオンライン公民館の仕組みも構築していく必要があると思います。

その他に、篠栗町北勢門校区地域づくり協議会の野見山会長の事例発表、まちづくり計画研究所の今泉講師による講評及び講演が行われました。



二日市地区

各地区公民館のコロナ感染対策紹介

2020年は、新型コロナウイルス感染問題が全世界で注目されるニュースで溢れました。いまだに終息する気配がありません。冬季に入り三密を避ける予防策が奨励されている中、福岡県においても2回目の緊急事態宣言が発出されました。二日市地区でも公民館利用が制限され、サークル活動も自粛するところがありました。ほとんどの行事が中止に追い込まれました。入館する場合は、抗菌スプレーを利用し、検温、氏名記入をするように指示が出されました。公民館再開活動に向けて、ひとり一人の行動が今後の終息に向けた闘いだと思われます。

二日市地区広報担当 尾上



二日市東地区紫ヶ丘公民館

(公民館の前のクリスマスイルミネーション)



(クリスマスギターコンサート)



紫ヶ丘公民館で最初に取り組んだのは、非接触型体温計と消毒用ハンドスプレーを準備し、公民館にポスターを貼って、感染対策をして活動に取り組んでくださいと呼びかけたことです。最初の緊急事態宣言では、一時期公民館の使用を中止しましたが、解除後は使用グループのみなさんが自発的に感染対策を行っています。コーラスや調理などリスクの高い活動は停止しています。高齢者サロンでは、飲食をやめて席の間隔をとってクリスマスギターコンサートを楽しみました。また地域の方に呼びかけて家に眠っているクリスマスグッズを寄付していただき、公民館の前に飾り、集まらないで楽しむイベントも行いました。コロナ禍の中で、リスクに気をつかいながらも工夫して地域のつながりを作っていました。



山口地区

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大と大変な年となりました。公民館活動では、年間行事の変更を余儀なくされている状況です。

その中で、区民の方々に利用していただくために地区コミセンより感染症拡大防止対策として対応マニュアルを頂き、コロナウイルスに負けない公民館活動を目指しています。



公民館活動では、使用願に伴い厳守事項 1~7 まで設けています。1. 活動等の内容に応じて講座、使用部屋等の分散化を行う。2. マスクの使用、手・指・消毒の徹底。3. 入館前に、利用者名簿に記入して保管管理の徹底。4. 人数制限及び時間制限の徹底。5. 空調設備・窓等の換気の徹底。6. 他の人と十分な距離を取る。7. 使用前・使用後の備品類の消毒の徹底。上記のとおり、厳守事項を守っていただくようお願いし、利用者に新型コロナウイルス感染症拡大防止のご理解ご協力を願い有意義な活動をめざしています。



御笠地区

御笠地区では、御笠まちづくり協議会公民館部会の取り組みとして「出張公民館なんでも講座」事業を実施しています。これは、公民館での新規講座のための講師紹介や運営のアドバイス、広報、助成金交付などを行うもので、毎年ほとんどの公民館が利用しています。今年度、活動が自粛される中「出張公民館なんでも講座」事業がどうあるべきかを三役で話し合い、助成金の対象をコロナ感染対策のための備品購入費も充当すると決定。換気のための扇風機や保湿のための加湿器、非接触型体温計や消毒薬など、それぞれの公民館で考えた感染対策グッズを購入し、有効に活用しています。

「コロナに敗けるな」を合言葉に、できる限りの公民館活動を持続していきたいです。

公民館 御笠まちづくり協議会 公民館部会 令和2年事業
出張なんでも講座！
「まちづくりは公民館活動から」
公民館役員だけで頑張らないで！
各団体・他の公民館とも協力して！
使える補助金も使って！
活動を更に充実させましょう！

公民館名	開催期日	題名	概要
袖須原	7/10(金)	コロナ対策備品購入	換気のための扇風機を3台購入
番園			
本道寺			
大石	12/17,12/22	コロナ対策備品購入	消毒設備、非接触型赤外線体温計購入
西吉木	11.26(木)	コロナ対策備品購入	非接触型体温計
東吉木			
原	6/13(土)	災害対策用品購入	換気用扇風機購入
宮の森	11/24(火)	コロナ対策備品購入	非接触型赤外線体温計購入
ゴルフ場団地			
みかさ台	6/30(火)	コロナ対策備品購入	消毒薬、換気のための扇風機購入
上阿志岐東			
上阿志岐西	9/6(日)	コロナ視察所運営訓練	避難所運営訓練、非接触型体温計、マスク、手指消毒薬を購入
中阿志岐	9/20(日)	敬老の日花束贈呈	小学生が、記念品や花束を各戸に届けた
下阿志岐	11/15(日)	コロナ対策備品購入	非接触型赤外線体温計、消毒薬購入
天山	12/3(木)	コロナ対策備品購入	加湿器、非接触型赤外線体温計購入
牛島	6/25(木)	コロナ対策備品購入	非接触型赤外線体温計購入

部会で公民館を補助する事

- ・道具の貸し出し(机・椅子・テント・音響・ベタンク・グラウンドゴルフ・ダーツ)等
- ・講師紹介(健康講話・料理教室)等
- ・助成金の交付(上限10000円)
- ※ 事業で使った領収書を部会に提出 → 次回の部会時に支払い。

【今年度は、コロナ対策や避難所運営時の備品購入も可とする】

山家地区



山家地区における各地区公民館では、マスク、手洗い、消毒液設置、利用者の検温・住所氏名記録、利用者数制限、利用前後の完全消毒、換気等を毎日徹底しています。山家コミュニティセンターでは上記の対策に加え、フェースガードやアクリル板設置等をしています。また、山家地区自公連では、リモート会議に備え、アイパッドを購入しました。

(アイパッド)



筑紫地区永岡公民館

永岡自治区では総会を書面議決方式としたことをはじめ主要なおよど・夏祭りや敬老会、餅つき大会等殆どの行事を中止しましたが、屋外活動の歩

こう会やほうげんきょうは感染防止対策を講じて実施したところです。公民館は第1波以降、マスク、検温、手指消毒、参加者名簿記載。間隔（人員制限）を取る等いわゆる三密を避ける。換気、机椅子備品消毒。飲食や長時間禁止など市などの情報や感染拡大予防ガイドライン等により使用制限、条件等の対応をしています。また、換気扇の整備や検温器、備品清拭用の消毒液、ペーパータオル等を備え付けるとともに利用制限や条件のお知らせ、掲示などにより感染防止の徹底を図っています。なお、入館時に使用する消毒液と容器は筑紫よかまち協議会（自公連部会）からの給付で大変助かっています。

現在の公民館活動は、主催講座であるパソコンや書道（通信教室へ）の他、全てのサークル活動は第2波終息後制限付きで再開しましたが、12月21日から再び中止しています。更に、本年1月13日発出の福岡県緊急事態宣言を受けて当面2月末までの公民館利用を休止しているところです。現在当区では、公民館利用を含む自治会活動におけるコロナ対策方針を作成して対応しているところですが、日常生活においても一人一人が新しい生活様式を定着させ、一日も早くコロナ禍が収束し、平穏な生活と安心して自治会、公民館活動ができるように願っているところです。



(入館時受付・利用注意掲示・検温器・手指消毒液・参加者名簿・入館時の検温)

筑紫南地区美しが丘南公民館

美しが丘南公民館は昨年のコロナ発生により令和2年2月より講座・教室などの貸し出しを中止、各公民館主催講座の中止を実施いたしました。令和2年5月より、ホール①②③、教室1、教室2は貸出を開始しました。貸出開始にあたり、入館時のマスク着用、検温の実施、名簿記入、換気、使用器具の消毒、人との距離の確保等を条件にして、貸出を開始しましたが、運動系や高齢者の多い教室については自粛をお願いしています。

公民館主催講座等は中止のままでしたが、8月末より主催講座等を開始してきました。運動系や高齢者の講座は引き続き自粛をお願いしています。令和3年1月14日の福岡県の緊急事態宣言の発動に伴い、公民館主催講座の中止、公民館を18時に閉館する事に決定、筑紫南コミュニティ地区の4公民館（原田、美しが丘北、光が丘、美しが丘南）共に18時に閉館する措置を実施しています。コロナが終息して、平常どおりに公民館活動ができることを願っています。 美しが丘南公民館主事 森 政之



公民館紹介 杉塚公民館



杉塚は天拝山の裾野に広がり、四王寺山・宝満山を望む田園地に位置する豊かな農村地帯です。現在 578 世帯、人口は 1385 名ですが、高齢化、少子化が課題です。只、昨年から新築の世帯が増えてきていて将来に希望が持てそうな状況です。杉塚区は杉塚と北杉塚にそれぞれ公民館を有しており、活動も別々となっております。杉塚公民館は平成 28 年 12 月に建て替えられましたが、公民館利用者にシニアが多い為、土足とバリアフリーが特徴です。

主な公民館活動は、ハムサンドウィッチ年輪サロン、子育てサロンちびすけ等。又、教室は絵手紙、踊り、そろばん、詩吟、書道が行われています。杉塚の特徴として、廃寺跡、埴安古墳等の歴史的文化財が点在する地域であり、埴安神社の伝統行事(オヨド子供神輿、しめ縄作り、ほんげんぎょう)や、門松作りが公民館活動の一部になっています。又、夏祭り、餅つき大会等の行事も行っています。公民館内はインターネット環境を構築済で、パソコン 6 台を開放しており、子供達が自由に利用しています。

杉塚区公民館 館長：萩尾 憲昭



(ほんげんぎょう)



(門松作り)



(餅つき大会)



(パソコン開放)

公民館紹介 大石公民館



大石公民館は、昭和 56 年 3 月に農業研修施設として建設されました。

現在 87 世帯、人口は 193 人(ピーク時の 80%)と減少傾向にあります。

主な公民館活動といたしましては、自治会活動をはじめ、子供会、老人クラブ、農業団体、各種団体等の開催会合を行っています。若年層の人口の増加は望めませんが、各年代層の方々が健康で生きがいがあり安全で安心して暮らしている

まちづくりをめざして公民館活動を進めています。現在コロナ禍の最中でもあり、十分な公民館活動はできていませんが、早く終息して区民の皆様と共に明るい未来を啓蒙していくことを心から願っております。

大石地区

大石公民館

館長 市川 敏光

